

2023 年 度 事 業 報 告 書

特定非営利活動法人 地球のステージ

1 事業の成果

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関連するCD、絵はがきなどの有償提供

●地球のステージ実施事業

- ・ 国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は、54回で、前年より4回減となり、コロナ禍以前と比較すると半減した状況が続いている。
- ・ 学校現場では、授業時間の確保やコロナ、インフルエンザ等の蔓延予防の観点から、催し物の企画開催を控える傾向があり、コロナ禍で一旦縮小した課外事業、外部講師を入れた活動などは現在でも復活していないため、公演回数も減少のままである。
- ・ 中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多かった。
- ・ 地球のステージ（音楽を伴わない講演）の実施。対面式の講演を2回実施した。地球のステージの語りだけの新しいシリーズとして実施。対象やテーマに応じて、内容を少しずつ組み替えながら実施。国際協力や人々との共存についても考えられるような内容とした。

- ③ 医療、教育、職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

●東ティモール事業：エルメラ県における母子保健リプロダクティブヘルス向上事業

- ・ 4月より、前年度から実施している母親学級および継続医療カードの使用を実施。両活動とも現地医療者が主体となって実施し、団体スタッフはそれをサポートする形をとった。
- ・ 7月に精神保健専門家および事務局長を現地へ派遣。健康教育用の教材ビデオを作成
- ・ 9月の1ヶ月間にわたり、母子保健サービスへのアクセス向上を目的とした啓発キャンペーンを実施し、健康状態や医療アクセスの低い16村を訪問。合計2,000人以上がこの機に医療サービスを受診した。
- ・ 10月に啓発キャンペーンのまとめとしてエルメラ県グレノ市において、政府関係機関、国際機関（国連、WHOなど）、他NGO、地域住民を対象とした啓発イベントを実施。当日来場者やSNS等のリーチも含め、6,000人以上が啓発メッセージを受け取った。
- ・ 10月にエルメラ県の10村においてエンドライン調査を実施。500人以上への聞き取り調査から、事業活動が効果的に実施されていたことを評価できた。
(継続医療受診率1年次5.36% → 3年次13.71%)
- ・ 11月に第3回産婦人科エコー研修を実施。今回は他地域への波及を目的とし、エルメラ県以外の11県から14人を対象として実施し、全員が研修終了時試験に合格した。
- ・ 11月に第2回産婦人科エコー研修受講者を対象とした最終試験を実施。11名中8名が合格し、正式なエコー実践者として国から認定された。

- ・ 12月に慶應大学の藤屋助教授を専門家として東ティモールへ派遣。現地保健省をメイン対象として、母子保健における継続ケア（妊娠中～出産～産後にかけて継続的に医療サービスを受診すること）の促進について、セミナーとワークショップを通して政策提言を実施。
- ・ 2月に第2回腹部エコー研修を実施。日本から専門家が遠隔で指導し、現地でアシスタント講師（昨年研修を受けた1期生）がそれをサポートする形で指導した。
- ・ 3月にこれまでエコー研修を受けた研修生、講師、現地医師会を招待し、エコー症例検討会を開催。研修生数名が症例を発表し、それについて参加者で議論を深め、エコーに関する知識向上や連携強化が達成された。

- ・ 助産師育成事業

マルチーニャ：INSTITUTO CIENCIAS DA SAUDE DILIを2023年12月に卒業。
現在、ハトリア村のコミュニティ・ヘルス・センターで助産師のボランティア兼研修を行っている。後マヌサエ村の助産師の求人が出たら正式に配属となる予定。

- ウガンダ事業：

ウガンダ北部南スーダン難民およびホストコミュニティに対する心理社会的支援モデル構築事業

- ・ ビディビディ難民居住区ゾーン3（全5ゾーン（区域）の中で子どもが最も多い）にある小学校12校のうち4校で心理社会的支援（PSS）ワークショップを実施・終了。
- ・ 2024年3月7日、最終発表会。対象の子ども、保護者、ユンベ地域の政府高官・行政関係者、難民自治組織のリーダー、UNHCR、同地で活動するNGOや宗教リーダーを招待し総勢約240名が集い、子どもたちのワークショップの活動紹介や、作った歌の発表を高く評価された。
- ・ PSSファシリテーター養成研修、PSOP（PSSを理解し展開を支える人々）研修共に終了。修了証は、最終発表会でビディビディ難民居住区のトップ、チーフコマンダーより贈呈を行った。
- ・ 大人向けPSSを4地域で開催した。
- ・ PSSセンターの設置を行った。

- パレスチナ事業（緊急支援）

- ・ 12月10日よりラファ市内のUNRWAが管轄する避難所を兼ねた学校にて、そこに避難している6～15歳の子どもたちを対象に、毎週1回2時間、PFAを実施。紛争が続いている中での活動になるので、リラクゼーションや遊びの要素を多めに含む内容で、気持ちを和らげられるようなものをメインに行った。各回120～250名ほどの子どもたちが積極的に活動に参加し、笑顔や歓声があふれていた。
- ・ 2月7日、3月13日に公立エル・ナジャール病院に入院する65名の患者さんへ食糧配給を実施。食糧リストに則って、ラファやハンユニスの卸売業者から食糧を購入。電気は止められ、燃料も不足しているため、そのままでも食べられる缶詰や保存がきくものを中心に配布した。
- ・ 3月13日、エル・ナジャール病院に医薬品を提供。主に救急の外科外来で使用する医薬品、ガーゼなどを支援した。

● ミャンマー教育支援事業

- ・ ミヤッセ・ミャー村の中学校 3 年生から高校 2 年の生徒の就学を支援するため、通学にかかる費用支援、学習資材の支援を行った。
- ・ 2023 年 3 月時点で通学している生徒 10 名へ学資支援を行った。
G7：3 名、G8：2 名、G9：1 名、G10：0 名、G11：1 名、G12：3 名 計：10 名
G7～G19：22,500 kyats/月、G10～G12：30,000 kyats/月
- ・ コーディネーター給与として、\$100/月 10 ヶ月分を送金。

● その他海外事業

- ・ トルコ・シリア大地震支援

1. 被災者への物資配給並びに、日本人医師による健康チェックを実施した
2. 支援内容 以下の内容物を 1 セットとして配布を行った。

対象：トルコ マラティヤ県 アクチャダー市、ドアンシェヒル市 291 世帯、873 名

【食料】

米 2 kg、ブルグル 2 kg、赤レンズ豆 1 kg、インゲン豆 1 kg、砂糖 1 kg、茶葉 500g、
トマトペースト 830g、パスタ 1.5 kg、リゾーニ 500g、小麦粉 1 kg、食用油 1 kg、塩
750g、インスタントスープ 65g

【衛生用品】

ウエットティッシュ 90 枚入り、洗濯用洗剤 1.5kg、食器用洗剤 650ml、シャンプー450ml、
トイレットペーパー16 ロール、石鹼 55g * 5 個入り 各 1 個、生理用品 10 枚入り * 2
パック

- ・ ウクライナ支援事業

NPO 法人グッドネーバース・ジャパンが行っている、ウクライナ難民に対しての心のケア事業に関し、地球のステージとして事業実施提携合意書・専門家派遣合意書を交わし、心理社会的支援（PSS）に専門的見地よりサポートを実施した。

- ・ 心理社会的支援の実施状況を確認し、より効果的な事業実施や、質の向上のため、専門的見地から助言を行った。
- ・ 心理社会的支援に携わる職員に対して、個別指導、ワークショップ等の形で、キャパシティ・ビルディングを行った。
- ・ その他心理社会的支援の実施に際して、専門的見地から必要とされる助言や、それにもなう協議等を行った（ZOOM にて現地との質疑応答形式）。

● 東日本大震災復興支援事業：

- ・ 館内や出張語り部の際に流す活動紹介ビデオの英語字幕版を制作。
- ・ 3 月 11 日、閉上の記憶主催の追悼のつどいに関し、撮影、音響、運営の補助として代表、スタッフが参加した。
- ・ 建物の支援を行った

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関する CD、絵葉書などの有償提供

● 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 日本全国の学校体育館・ホールなど
- ・ 従事者人数 約3名（1公演）2名（マネジメントスタッフ）
- ・ 対象者 学校の生徒・教職員、一般参加者 約20,000人
- ・ 支出額 14,865,047 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ④ 自然災害時における救援活動に関する事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

● 東ティモール支援事業

- ・ 事業内容 医療アクセスの悪い山岳地帯のエルメラ県で、多くの女性と子どもが質の高い母子保健サービスを利用できるようになることをめざし、医療者への超音波診断器を使った妊産婦検診指導、母子手帳の有効活用、母親学級の改善、母子や女性の健康に関する住民への啓発活動に取り組む。助産師育成事業にも取り組む。
- ・ 日時 2023年4月1日～2024年3月30日（N連事業/継続）
2023年4月1日～2023年12月31日（助産師育成事業）
- ・ 場所 東ティモール民主共和国 エルメラ県全52村
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ4名、東ティモールスタッフ6名、専門家6名
- ・ 対象者 直接裨益者：約20,000人（エルメラ県の医療従事者、県保健局役人、保健ボランティア、村長、対象妊産婦、啓発キャンペーン対象地区の住民）
間接裨益者：約13万人（エルメラ県全医療従事者及び住民）
助産士学校学生 1名
- ・ 支出額 52,000,117 円

● ウガンダ事業

- ・ 事業内容 ウガンダ北部の南スーダン難民と貧困や家庭内暴力等に苦しむウガンダ国民を対象に心理社会的支援を行う。心理社会的支援センターを設立し、実践者の育成、学校、医療福祉従事者への心理社会的支援セミナーにも取り組む。
- ・ 日時 2022年4月1日～2023年3月31日（N連事業/継続）
- ・ 場所 ウガンダ北部ユンベ県南スーダン難民ホストコミュニティ地区およびビディビディ難民居住区

- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 4 名、現地スタッフ 6 名、専門家 2 名
- ・ 対象者 直接裨益者：219 名（対象校の生徒、ファシリテーター、
学校、医療福祉従事者、対象地域の大人）
間接裨益者：約 3,000 人（直接裨益者の家族や友人、事業外研修の
受講者）
- ・ 支出額 58,248,094 円

● パレスチナ支援事業

- ・ 内容 ガザ地区南部における食料、医薬品の提供を中心とした病院支援と、心理的応急処置を中心とした精神保健・心理社会的支援事業（第一期）
ガザ地区南部における心理的応急処置活動とその後の精神保健・心理社会的支援事業（第二期）
- ・ 日時 2023 年 12 月 10 日～2024 年 3 月 31 日（JPF 事業/自己資金事業）
- ・ 場所 ガザ地区 ラファ市
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 3 名、現地スタッフ 6 名
- ・ 対象者 直接裨益者：約 1,810 人（エル・ナジャール病院の入院・通院患者）
約 8,000 人（ラファ市の UNRWA の 4 つの学校に避難している 6～15 歳の子どもたち）
間接裨益者：約 32,000 人（直接裨益者の家族、避難所の避難者）
- ・ 支出額 6,021,603 円

● ミャンマー教育支援事業

- ・ 内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・ 日時 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日（継続）
- ・ 場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 2 名、現地スタッフ 1 名
- ・ 対象者 中学生 Grade7：3 名 Grade8：2 名 Grade9：1 名
高校生 Grade11：1 名、Grade12：3 名 計 10 名
- ・ 支出額 548,182 円

● 災害・紛争時に対する緊急医療支援活動 （トルコ大地震支援）

- ・ 内容 2023 年 2 月 6 日の M7.8 の巨大地震発生を受け、被災者への物資配給並びに、日本人医師による健康チェックを実施。
- ・ 日時 2024 年 5 月
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 2 名、専門家 1 名、現地スタッフ 2 名（トルコ）
- ・ 対象者 291 世帯、873 名

（ウクライナ支援）

- ・ 内容 心理社会的支援（PSS）事業に対するアドバイス・サポート業務。
ウクライナ避難民の心のケアを目的とした事業立案調査も含む。
- ・ 日時 2023 年 6 月 20 日～2024 年 2 月 8 日
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 1 名、専門家 1 名、現地スタッフ 2 名
- ・ 支出額 4,406,876 円（計）

● 東日本大震災復興支援事業

- ・ 内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の後方支援
(追悼の集いにおける人的支援ならびに、閑上の記憶建物支援)
- ・ 日時 2023年4月1日～2024年3月31日
- ・ 場所 宮城県名取市閑上
- ・ 従事者人員 スタッフ2名
- ・ 裨益者数 追悼の集い参加者 400名
- ・ 支出額 817,547円